

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/1/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年2月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは1月31日（金）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		1月30日現在	2月の予想		(月末値)
USD	ドル・円 (円)	154.90	150.0	～	160.0 155.0
	トランプ大統領の発言を睨みながら神経質な展開が続く				
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.043	1.01	～	1.06 1.04
	ユーロ・円 (円)	161.52	150.0	～	170.0 161.2
	景況感底打ちの兆しも、政治・外交のリスクには注視が必要				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.246	1.22	～	1.27 1.25
	ポンド・円 (円)	192.95	184.0	～	200.0 193.8
	日英金利差の縮小を背景にポンド安円高がじりじりと進む展開				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	96.65	91.0	～	99.0 95.0
	NZドル・円 (円)	87.76	84.0	～	90.0 87.0
	いよいよ豪中銀も利下げ局面入りが近い				
株式 相場	日経平均 (円)	39,372	37,000	～	42,000 41,000
	好決算が示され、一段高を予想				
長期 金利	NYダウ (ドル)	44,714	42,000	～	46,000 44,000
	DeepSeekショックは過剰反応とみるが、マインド改善には時間がかかりそう				
	日本 (%)	1.210	1.10	～	1.30 1.200
	日銀の追加利上げを通過したことで金利は一旦は横ばい				
	米国 (%)	4.539	4.30	～	4.80 4.500
	トランプ大統領の関税政策は想定ほど厳しくない可能性。金利は小幅に低下				

◆ 今月の注目ポイント

トランプ節の炸裂に要警戒

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	◎	【トランプ政権2.0の政策】第2次トランプ政権が1月20日に発足した。警戒されていた関税強化策は、初日からの発動や全ての輸入品への一律課税は見送られた。またトランプ大統領は「中国への関税は使わずに済むのが望ましい」と発言するなど、過度な警戒は幾分後退している。一方でメキシコ・カナダには25%課税する方針、原油価格の引き下げをOPECに要請する意向やFRBへ利下げを要求する姿勢を示すなど、トランプ節と言われる過激発言は続いており、トランプ大統領の発言を巡る報道に一喜一憂する展開が今月も継続するだろう。
	◎	【23日 独総選挙】製造業の落ち込みが続く政治・経済の脆弱性が懸念される中で約20年ぶりの解散総選挙が実施される。世界的にポピュリズムが蔓延する中、テスラのイーロンマスク氏が極右政党の「ドイツのための選択枝（AfD）」の支持を表明。テールリスクの「Dexit（ドイツのEU離脱）」リスクが意識される展開には要注意となる。

◆ アジア通貨見通し

	1月30日現在	2月の予想		(月末値)
人民元・円	21.15	21.00	～	22.00 21.50
バーツ・円	4.585	4.40	～	4.70 4.55
ルピア・円	0.949	0.94	～	0.99 0.97

◆ 今月の重要日程

3日 (月) 米	1月ISM製造業	14日 (金) 米	1月小売売上高
5日 (水) 日	12月毎月勤労統計	17日 (月) 日	10-12月期GDP
5日 (水) 米	1月ISM非製造業	18日 (火) 豪	豪準備理事会
7日 (金) 米	1月雇用統計	19日 (水) 米	FOMC議事録
12日 (水) 米	1月CPI	21日 (金) 日	1月全国CPI
14日 (金) 欧	10-12月期GDP	23日 (日) 独	総選挙

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

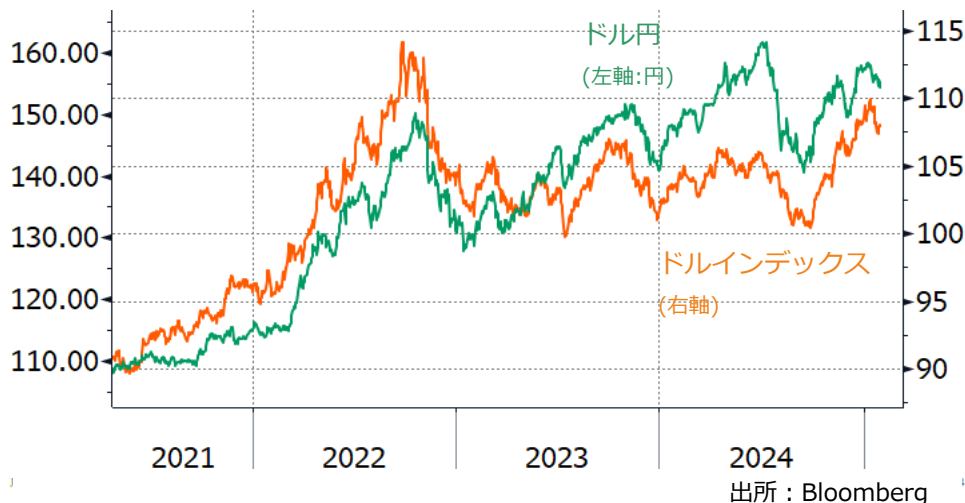
2025/1/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年2月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円

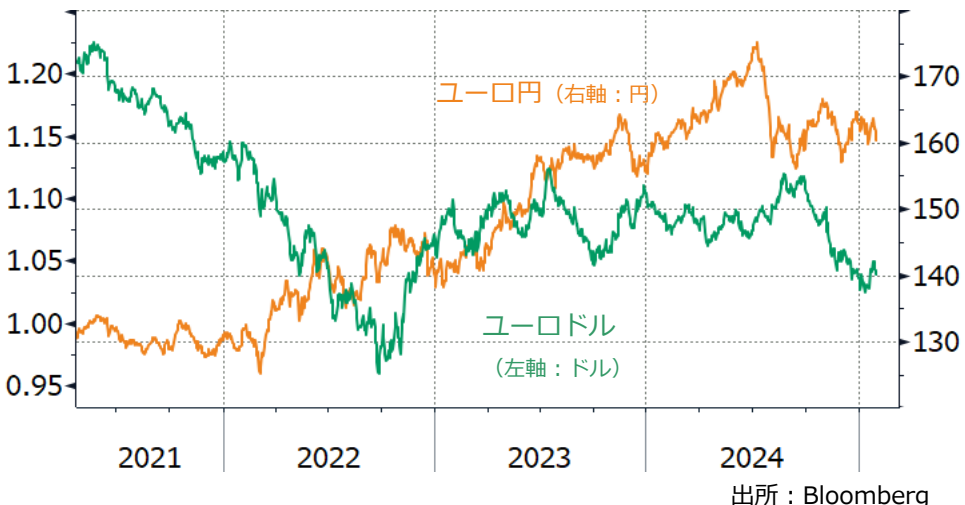
150.00 – 160.00円

トランプ大統領の発言を睨みながら神経質な展開が続く

1月のドル円相場は、トランプ政権のインフレ的政策への警戒感に伴う米金利上昇を背景にドル買いが強まり、ドル円は一時158円台後半まで上昇した。しかし、その後は20日の大統領就任式を経て関税強化に対する過度な警戒感が後退したことや、24日の日銀会合に向けて追加利上げ観測が高まったことなどから月末にかけてはドルの上値が重くなり、154円割れに下落した。

2月のドル円相場は、トランプ大統領の発言を睨みながら、神経質な展開が続くと予想する。トランプ政権の政策に対する過度な警戒感は幾分後退しているが、関税や移民対策などの重要政策を巡る発言や金融政策への言及には注意が必要であり、ヘッドラインリスクは当面続くだろう。一方、日銀は先月に続き追加利上げを模索するものの、熾る政局不安への配慮から7月の参院選後にずれ込む可能性があり、急速な円高進行は見込みにくい。FRBは1月FOMCで利下げを見送り、パウエルFRB議長は「政策スタンスの調整を急ぐ必要はない」と次回3月FOMCでの据え置きも示唆したことから、米金利は高止まりとなる公算。ドル円相場は155円を中心にトランプ大統領の発言に一喜一憂する展開が見込まれる。

ユーロ



ユーロドル

1.01 – 1.06ドル

ユーロ円

150.00 – 170.00円

景況感底打ちの兆しも、政治・外交のリスクには注視が必要

1月のユーロは、対ドル・対円ともに前月末比横ばい圏となった。昨年秋ごろからの景況感悪化を受けECBが2025年も漸進的な利下げを継続するとの思惑に加え、トランプ氏の関税政策を巡る警戒感もあって中旬頃まではユーロが売られやすい展開となり、一時1ユーロ1.02ドルを割れる場面もあった。しかし、20日の米大統領就任式を通過すると、関税の即時発動が見送られるなど市場が警戒していたような事態を避けられたことからユーロの買い戻しが入った。

2月のユーロは、概ね横ばい圏内で推移しそうだが、下押しリスクには引き続き警戒が必要か。ECBによる漸進的な利下げが継続されるとの見方に変化はないものの、景況感の悪化に底打ちの兆しがみられることは好材料だ。ただし、23日の独議会議選で極右勢力が躍進するリスクやトランプ米大統領がEUに対して関税を課すことを正式に決定するリスクを鑑みると、パリティ(等価)付近まで瞬間的にユーロが下落するような展開にも一定の警戒が必要だろう。

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

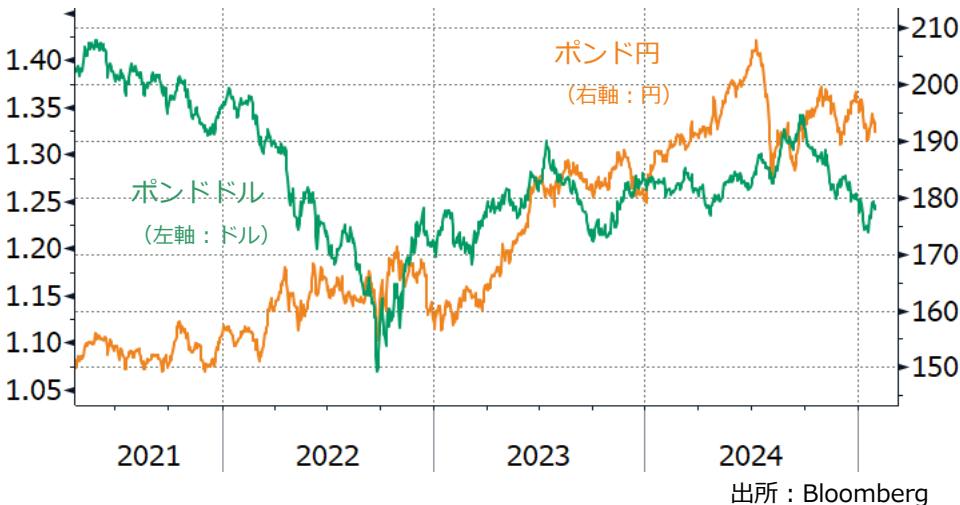
◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/1/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年2月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替（ポンド・豪ドル・NZドル）

ポ ン ド



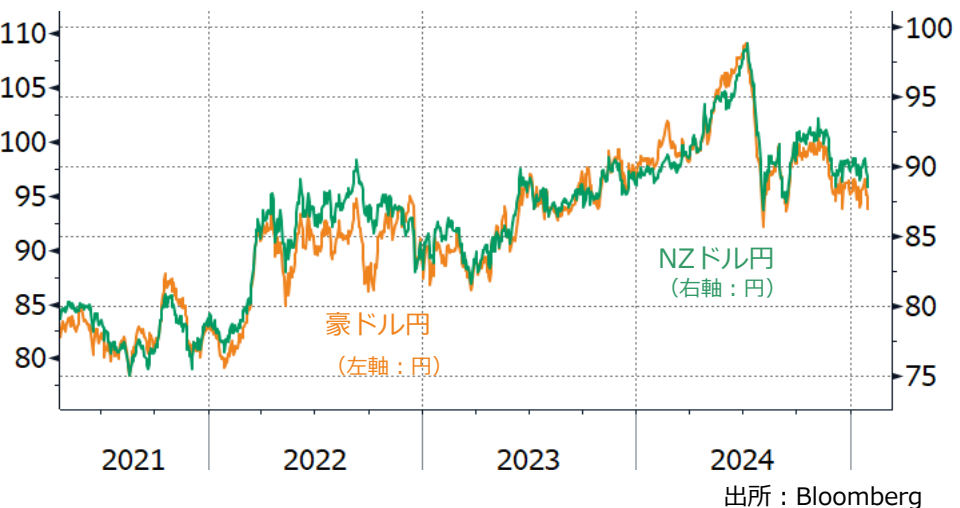
ポンドドル	1.22 – 1.27ドル
ポンド円	184.00 – 200.00円

日英金利差の縮小を背景にポンド安円高がじりじりと進む展開

1月のポンド相場は、トランプ新政権のインフレ的政策への警戒感から全般的にドル買いが優勢となる中でポンドも月半ばにかけて対米ドルで下落。ポンド円も上値の重い展開となり一時190円割れに下落した。しかし、20日の大統領就任式を経て、関税強化への過度な警戒感が低下すると、ポンドはやや買い戻され、ポンド円も下げ止まった。

2月のポンド円は、英中銀の利下げ観測を背景に上値の重い展開を見込む。英中銀は12月会合で政策金利を据え置いたが、3人の委員は利下げを主張し6対3の決定であった。バイリー総裁は「今後の利下げは段階的なアプローチが正しいと考えている」としてハト派姿勢を示し、今月6日の会合で利下げを実施する可能性が高まってきている。第4四半期のGDPはゼロ成長が見込まれており、脆弱な経済環境の中で、23日の独総選挙を契機に欧州政治リスクが再燃する可能性もあり、利下げ観測と相俟ってポンドの上値は重く推移しそうだ。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円	91.00 – 99.00円
NZドル円	84.00 – 90.00円

いよいよ豪中銀も利下げ局面入りが近い

1月のオセアニア通貨は、前月末比で対ドルは上昇、対円では概ね横ばいあるいは下落した。25年前半の利下げ局面入りが意識されるなか、トランプ米大統領による関税政策など対中強硬的な政策が警戒され、中国と貿易等でかかわりが深いことから豪ドルなども軟調に推移したが、米大統領就任式で関税の即時発動が見送られると買いが入った。一方、中旬以降は日銀による利上げの織り込みが急速に進んだことなどが対円の上値を重くした。

2月のオセアニア通貨は、豪中銀の利下げ局面入りがより意識され、上値の重い展開を見込む。29日に公表された24年第4四半期豪CPIは、総合指数と豪中銀が重視するトリム平均値がともに市場予想を下振れ、基調的な物価上昇率は目標レンジの2～3%により近接したと評価できる内容であった。これを受けて豪中銀が2月にも利下げ局面入りするとの見方が台頭してきており、足元で豪ドルは上値が重くなりやすい。また、米国が対中追加関税を課し豪ドルが大幅に下落するリスクも依然として意識されよう。

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

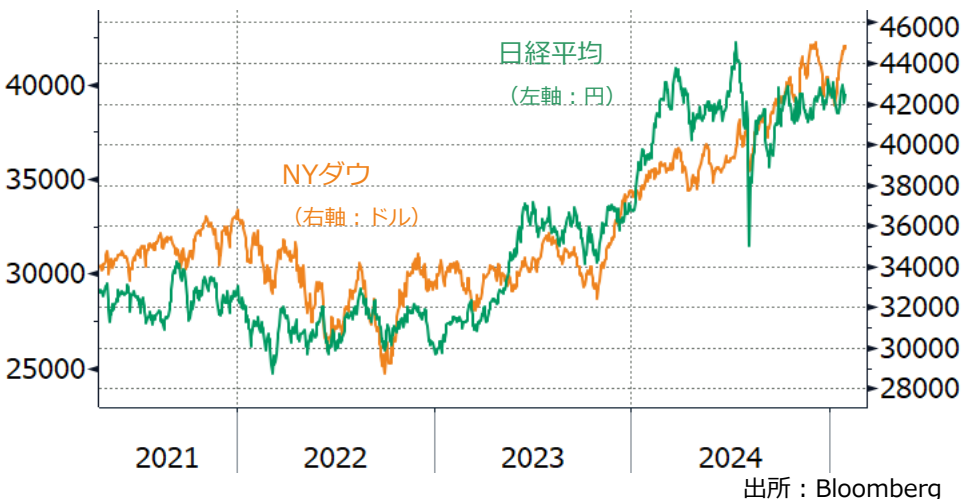
2025/1/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年2月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

37,000 – 42,000円

好決算が示され、一段高を予想

日本株は、昨年夏以降、業績予想の上方修正が止まったことから、海外投資家を中心に大きく売り越されてきた。それに伴い、日本株は業績対比でやや割安な水準で推移してきた。しかし、足元で予想利益が再び改善を始めている。2月以降決算発表が本格化するが、そこで好決算が示されれば、投資家が先行きの業績に自信を深め、日本株のバリュエーションが適正水準へと回帰することが期待される。

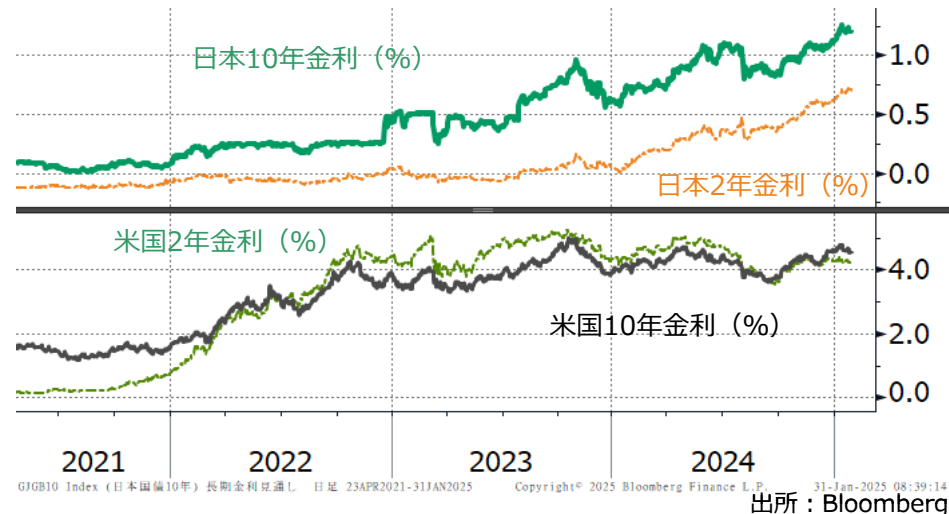
NYダウ

42,000 – 46,000ドル

DeepSeekショックは過剰反応とみるが、マインド改善には時間がかかろう

中国DeepSeekが、米国のAI企業の競争優位性を削ぐとの懸念から、ハイテク株が大きく調整したが、企業のファンダメンタルズをやや逸脱した動きに見える。経済環境やトランプ大統領の政策を鑑みると、割安との判断が妥当と考えるが、このショックに市場が慣れるまでの間、好決算が発表されても、株価の反応は冴えない展開が続く可能性がある。なお、NYダウにはディフェンシブ銘柄が多く含まれるため、SP500やナスダックの動きとは乖離する可能性がある点には留意。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

1.10 – 1.30%

日銀の追加利上げを通過したことで金利は一旦は横ばい

1月24日の金融政策決定会合では、政策金利が0.50%へと引き上げられた。同時に公表された展望レポートや植田総裁の記者会見では、政策金利の引上げ余地がまだあることが示唆されたものの、当面は本格化していく春闘の動向や、国会での経済政策の議論を日銀としては見守っていくことになるだろう。財政規律の緩みによって金利が上昇しやすい局面が続きながらも、日銀が当面は様子見の状態になることから、長期金利は現状程度の推移が続いていくだろう。

米国債10年

4.30 – 4.80%

トランプ大統領の関税政策は想定ほど厳しくない可能性。金利は小幅に低下か

トランプ大統領の就任前に予想されていたほどには、関税政策は厳しくない可能性が台頭している。例えば、トランプ大統領は、できれば対中関税を賦課したくないとの考えを示しており、関税は Deals の手段との受け止めが広がっている。これを受けて、過度なインフレ懸念は後退し、金利は緩やかにではあるが、低下傾向に転じた。家賃等のインフレ先行指標は落ち着いており、2月もインフレ関連の経済指標の鈍化が確認されれば、緩やかな低下が持続しよう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

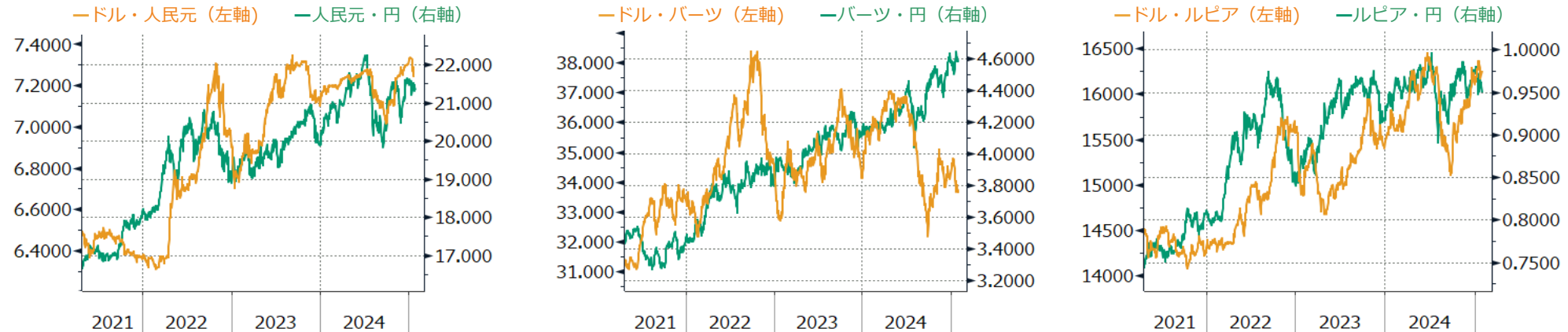
◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/1/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年2月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		2月の予想	見通し
中国	人民元/円	21.00 ~ 22.00	米中金利差の縮小ペースが見えずドル人民元は高止まりか 米国現地時間1月20日に第二次トランプ政権がスタートした。同日に行われた就任演説と初日に署名された40余りの大統領令は、トランプ大統領が選挙戦で公約としてきた内容に沿うものとなった。しかし、市場が懸念していたほど急進的な内容にはならなかったことで、ドル人民元は史上最高値圏からはやや下落している。ただし、トランプ大統領が景気浮揚的・インフレ的な政策を本格化させるのはこれからであり、また中国当局も一定程度は通貨価値の防衛に配慮しつつも通貨安を容認するスタンスになっている。こうした米中当局の政策スタンスによりドル人民元は高止まりしていくだろう。
	ドル/人民元	7.20 ~ 7.40	
タイ	バーツ/円	4.40~4.70	バーツはもみ合いか。米政権の関税政策やタイ政府による中銀への利下げ圧力の高まりがリスク要因 1月のバーツは対ドルで上昇。年初より米トランプ新大統領就任への警戒感や米金利上昇を受けて弱含むも、月央からの米国のインフレ懸念の後退や関税政策発動の一旦見送りなどを好感してバーツは反発している。2月のバーツは弱含みか。タイ国ファンダメンタルズの堅調さや人民元高がバーツ支援材料となるが、米トランプ新政権の関税政策動向やタイ政府による中銀への利下げ圧力の高まり等のバーツ売り材料への反応が大きそうだ。
	ドル/バーツ	32.5~34.5	
インド	100ルピア/円	0.94~0.99	インドネシア中銀のルピア安定化の取り組みがサポート材料。 1月のルピアは対ドルで小幅下落。タイバーツと同様にルピアは年始から軟調推移となる中、インドネシア中銀のサブライズ利下げもあって月央には一時24年6月以来の安値水準をつける場面も見られた。月末にかけては米新政権の関税政策発動見送りを好感して急反発している。2月のルピアは弱含みか。中銀の介入等ルピア安定化施策は引き続き支援材料も、当面は米政権の関税政策や米金利動向等に神経質な反応を見せそうだ。
	ドル/ルピア	15,600~16,600	



◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/1/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年2月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2025年				ポイント
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	
ドル円	レンジ	145 ～ 165	135 ～ 160	135 ～ 155	130 ～ 150	FRBによる金融緩和と日銀による追加利上げ観測を背景とした緩やかな日米金利差縮小の思惑でドル安円高基調継続。トランプ新政権の政策と実現性に注目。
	期末値	150	145	145	140	
ユーロドル	レンジ	1.00 ～ 1.08	1.00 ～ 1.10	1.03 ～ 1.13	1.01 ～ 1.11	景気停滞感やトランプ米大統領の関税政策など、目先はユーロ下押し要因が多い。ECBは中立金利とされる2%付近まで漸進的に利下げを継続することによって次第に景気回復が見込まれ、先行きはユーロが上昇に転じる場面も想定される。
	期末値	1.03	1.05	1.08	1.06	
ユーロ円	レンジ	145 ～ 170	145 ～ 165	145 ～ 165	140 ～ 160	英中銀はインフレの緩和に鑑み、昨年8月より利下げサイクル局面を開始したが、高止まりするサービスインフレから、緩やかな利下げパスが想定される。緩やかな日英金利差縮小観測を背景にポンド円は徐々に上値が重くなる展開を想定。
	期末値	155	152	157	148	
ポンドドル	レンジ	1.20 ～ 1.30	1.25 ～ 1.35	1.25 ～ 1.35	1.25 ～ 1.35	中国当局は一定程度は通貨価値防衛に配慮しながらも景気浮揚へと軸足を移しており、人民元安を容認する姿勢を明確化しつつある。金融緩和を含めた景気支援策や不動産市場支援策による中国経済の回復は元の上昇要因だが、米国では新政権下でのインフレ的な政策による金利の高止まりが見込まれ、ドル人民元の下落は緩やかなペースに留まる。
	期末値	1.25	1.30	1.30	1.30	
ポンド円	レンジ	178 ～ 203	178 ～ 198	178 ～ 198	172 ～ 192	インフレ率の更なる鈍化が確認され、豪中銀が2月に利下げ局面入りするとの観測が台頭。日銀の利上げが継続していけば対円は徐々に上値が重くなるか。
	期末値	188	188	188	182	
ドル人民元	レンジ	7.10 ～ 7.40	7.00 ～ 7.30	7.00 ～ 7.30	6.90 ～ 7.20	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。
	期末値	7.30	7.20	7.20	7.10	
人民元円	レンジ	19.00 ～ 22.50	19.50 ～ 23.00	19.50 ～ 23.00	19.00 ～ 22.50	
	期末値	20.55	20.14	20.14	19.72	
豪ドル円	レンジ	90.00～102.00	93.00～105.00	90.00～102.00	87.00～99.00	
	期末値	96.00	99.00	96.00	93.00	
タイバーツ円	レンジ	4.00 ～ 5.00	4.10 ～ 5.10	4.10 ～ 5.10	4.00 ～ 5.00	
	期末値	4.50	4.60	4.60	4.50	

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/1/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年2月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
2/3(月)		1月ISM製造業景況指数	
2/4(火)	10年債入札	12月製造業受注	
2/5(水)	12月毎月勤労統計 (速報)	12月貿易収支	
		1月ADP雇用統計	
		1月ISM非製造業景況指数	
2/6(木)	30年債入札		(英) BOE金融政策委員会
2/7(金)	12月家計調査	1月雇用統計	
2/9(日)			(中) 1月CPI
2/10(月)	1月景気ウォッチャー調査		
2/11(火)	(建国記念日)	3年債入札	
2/12(水)		10年債入札	
		1月CPI	
2/13(木)	1月企業物価指数	1月PPI	
		30年債入札	
2/14(金)	5年債入札	1月小売売上高	(欧) 10-12月期GDP (速報値)



	日本	米国	その他
2/17(月)	10-12月期GDP (一次速報値)	(大統領の日 (ワシントン誕生日))	
2/18(火)	20年債入札	2月NY連銀製造業景況指数	(豪) 準備銀行理事会
			(独) 2月ZEW景況指数
2/19(水)	12月機械受注	1月住宅着工・許可件数	
	1月貿易統計	20年債入札	
		FOMC議事要旨	
2/20(木)		2月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	
2/21(金)	1月消費者物価指数	1月中古住宅販売	(欧) 2月PMI (速報値)
2/23(日)	(天皇誕生日)		(独) 議会選挙
2/24(月)	(振替休日)	2年債入札	(独) 2月IFO企業景況感指数
2/25(火)		2月消費者信頼感指数	
		5年債入札	
2/26(水)		1月新築住宅販売	
		7年債入札	
2/27(木)	2年債入札	10-12月期GDP (改定値)	
2/28(金)	1月鉱工業生産	1月個人所得・消費支出	
	1月住宅着工件数		

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/1/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年2月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【1/6～1/10】

◎ 100 都市の新築住宅価格、16 カ月連続上昇

不動産関連指標を扱う中国指数研究院が発表した2024 年12 月の主要100 都市の平均新築住宅価格は、1 平方メートル当たり1 万6,654 元（約35 万8,700 円）だった。前月に比べ0.37%上がり、16 カ月連続で上昇した。24 年の新築住宅価格は平均2.68%上昇した。1 級都市は5.82%上昇、上海市は年間10.32%上がり、100 都市で最も価格上昇が進んだ都市となった。政府が11 月中旬に打ち出した不動産取得の税優遇措置に加え、新築物件の売り出し増加もあり、住宅取引が回復した。

【1/13～1/16】

◎ 24 年新車販売は過去最高、NEV 初の1 千万台超

中国自動車工業協会は13 日、中国の2024 年の新車販売台数が前年比4.5%増の3,143 万6,000 台だったと発表した。前年を上回るのは4 年連続で、年間の過去最高台数を更新した。政府の買い替え補助金政策とメーカーの販促強化が好材料となり、販売を押し上げた。24 年の乗用車販売に占めるシェアは中国系が65.2%、23 年から9.2 ポイント上昇した。外資シェアは、ドイツ系が14.6%、日系が11.2%、米国系が6.4%と軒並み下がった。プラグインハイブリッド車が好調に推移し、「新エネルギー車（NEV）」の年間販売は初めて1,000 万台を突破。販売比率は4 割を超えた。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12
実質GDP成長率	%	-	5.3	-	-	4.7	-	-	4.6	-	-	5.4
消費者物価上昇率	%	0.7	0.1	0.3	0.3	0.2	0.5	0.6	0.4	0.3	0.2	0.1
都市部調査失業率	%	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	5.2	5.3	5.1	5.0	5.0	5.1
輸出額	10億ドル	221.7	279.4	291.9	301.8	307.3	300.3	308.3	303.5	308.9	312.0	335.6
輸入額	10億ドル	180.8	220.8	219.9	220.0	208.4	215.0	217.0	221.8	213.1	214.7	230.8
経常収支	100万ドル	-	39,213	-	-	93,739	-	-	241,319	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,225.8	3,245.7	3,200.8	3,232.0	3,222.4	3,256.4	3,288.2	3,316.4	3,261.1	3,265.9	3,202.4
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.19	7.20	7.24	7.23	7.25	7.26	7.15	7.08	7.11	7.21	7.28

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年2月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○2024年、中国流行語ベスト10

中国では、社会言語を題材に扱う月刊誌「咬文嚼字（こうぶんしゃくじ）」は中国流行語ベスト10を発表しました。掲載元の「咬文嚼字」編集部によると、順位は以下の通りです。

1位、数智化

数智化は「数字化」と「知能化」を合体させた言葉です。中国で急速に広がるデジタル化と人工知能（A I）などハイテクの融合を表しています。

2位、智能向善

「善のためのA I」という意味です。A Iのガバナンスを重視し、A Iを安全に使うべきことを表しています。

3位、未来産業

最先端技術を基盤とし、「これまでにない」新しい産業を指しています。

上記の三つの流行語は日常生活では使われることはほぼなく、ニュースや記事などでよく利用されています。

4位、city不city

昨年から中国政府が38カ国に対してビザを免除するなど外国人観光客の誘致を進める背景で、中国を旅行した米国人が作った言葉「city不city」が大ヒットしました。cityはもともと都市、都市化の意味ですが、「city不city」はおしゃれ、モダン、現代化、ワクワク、楽しいという意味合いを派生させています。

5位、硬控

ネットゲームから生まれた言葉で、強制的にコントロールされるという意味になります。インパクトが強い物や人を見て、動けなくなった状態を表しています。例文：彼の顔に「硬控」数十秒。

6位、水靈靈地○○

韓国の人気女性歌手がきっかけで話題になった言葉です。みずみずしくキラキラとしている様子を形容します。特に若者の言葉として、遊び心のある表現です。例文：彼はこうやって「水靈靈地」現れた。

7位、班味

「一旦働いたら、あなたの雰囲気が変わる」というネット記事がきっかけで流行しました。仕事上のストレスや人間関係などでやつれている状態を表しています。

8位、松弛感

プレッシャーに直面しても余裕をもって対処するメンタルを示しています。若者は「松弛感」を追求し、現在社会のプレッシャーが大きいことを反映しています。

9位、銀髮力量

シルバーパワーの意味です。速いスピードで高齢化が進む中国社会を表しています。この表現は日常的に使われることはほぼなく、主に中国政府が高齢者の社会参加や貢献を奨励するために創り出した言葉のようです。

10位、「小孩哥」/「小孩姉」

子供が特定の分野で非凡な才能を持ち、大人もかなわないことを意味しています。子供たちは自己表現と探求欲に満ちていることを表しています。

「咬文嚼字」の編集長は「言語は社会の鏡であり、今年の流行語は時代の特徴を鮮明に映し出している」と述べました。皆様は知っている言葉はありましたでしょうか。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/1/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年2月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向 りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆ 2024年11月の国内経済、前月比減速

タイ中央銀行は2024年11月の経済報告書で、前月と比べて経済活動が減速したとの見方を示した。前月に1万パーツ（1パーツ＝約4.6円）の現金配布といった政府の景気刺激策で伸びた個人消費が反動で落ち込んだこと等が影響した。民間消費は前年同月比0.7%増加にとどまり、前月比では主要部門のほとんどで減少した。観光収入も減少した。民間投資は同2.6%増。設備投資は建設投資ともに減速した。鉱工業生産指数は同3.6%下落した。自動車や食品・飲料の生産は落ち込んだ一方、石油、集積回路（IC）の生産は加速した。

◆ 2024年のCPI上昇率、0.40%上昇

タイ商務省が発表した2024年の一般消費者物価指数（CPI）の平均値は、前年比0.40%上昇したものの、4年ぶりの低い伸びになった。分野別では、食品・飲料が前年比0.76%増、非食品が同0.14%増とそれぞれ上昇した。

2025年のCPI上昇率は0.3～1.3%（中間値0.8%）と予測した。政府が電気料金と液化石油ガス（LPG）の価格を抑制する他、野菜・果物価格が干ばつ被害の影響で高かった前年の反動が出るとみている。

◆ 2024年1～11月の自動車生産台数、前年同期比20.1%減少

タイ工業連盟（FTI）によると、2024年1～11月の自動車生産台数は136万4,119台で、前年同期比20.1%減となった。内訳は乗用車が51万9,691台（同13.2%減）、商用車が84万4,428台（同23.9%減）となった。国内の新車販売台数は前年同期比26.7%減の51万8,659台で、20%を超えるマイナスが続いている。

完成車輸出台数は同8.2%減の94万2,867台。輸出額は同1.6%減の6,467億4,810万バートとなった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12
実質GDP成長率	%	-	1.6	-	-	2.2	-	-	3.0	-	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.8	-0.5	0.2	1.5	0.6	0.8	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2
失業率	%	0.8	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	-
輸出額	100万ドル	23,419	25,075	23,257	26,230	24,806	25,721	26,182	25,983	27,222	25,608	-
輸入額	100万ドル	23,778	25,936	24,935	25,373	24,388	27,094	25,917	25,589	28,016	25,833	-
経常収支	100万ドル	2,450	347	-493	-38	1,652	-268	1,307	1,163	659	2,034	-
外貨準備高	10億ドル	222.4	223.4	221.1	224.3	224.3	230.6	235.7	243.0	238.6	237.5	237.1
主要政策金利	%	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.25	2.25	2.25
対ドル為替レート	パーツ	35.9	36.0	36.8	36.6	36.7	36.2	34.7	33.3	33.4	34.5	34.2

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/1/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年2月号)

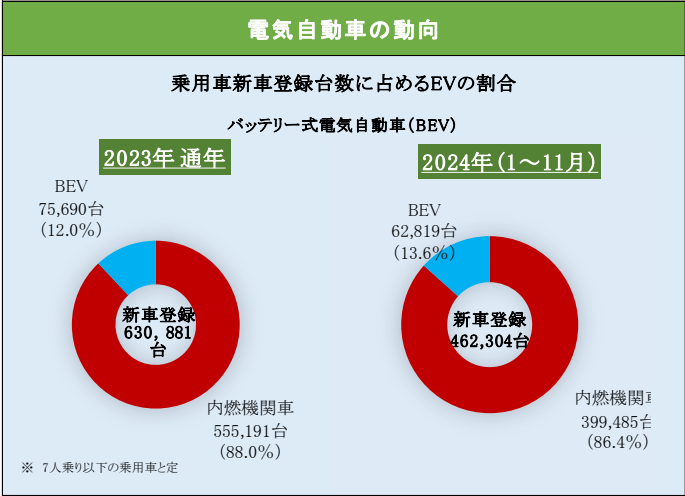
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

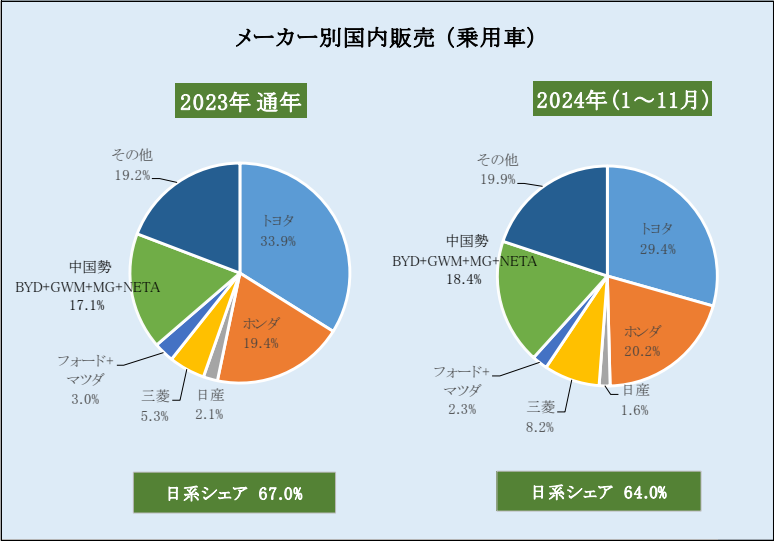
りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向								
			2021年	2022年	2023年	2024年 (1～11月)	前年同期比 (%)	11月
【台数】		(台)						
四輪	生産台数	乗用車	599,844	600,839	648,803	519,691	86.8	45,491
		商用車	1,085,861	1,282,676	1,192,883	844,428	76.1	71,760
		合計	1,685,705	1,883,515	1,841,686	1,364,119	79.9	117,251
	国内販売台数	乗用車	251,800	265,069	292,505	203,421	76.4	18,000
		商用車	507,319	584,319	483,275	315,238	71.5	24,309
		合計	759,119	849,388	775,780	518,659	73.3	42,309
輸出台数		959,194	1,000,256	1,117,539	942,867	91.8	89,646	
二輪	生産台数	1,780,654	2,015,940	2,120,738	1,733,506	88.6	148,142	
	国内販売台数	1,606,481	1,792,016	1,856,814	1,558,446	90.4	136,622	
	輸出台数	965,967	1,034,840	822,608	857,587	115.0	81,225	
【完成車輸出金額】		(百万バーツ)						
四輪			561,147	619,348	719,992	646,748	98.4	57,958
二輪			75,985	73,729	68,589	58,607	93.3	5,856

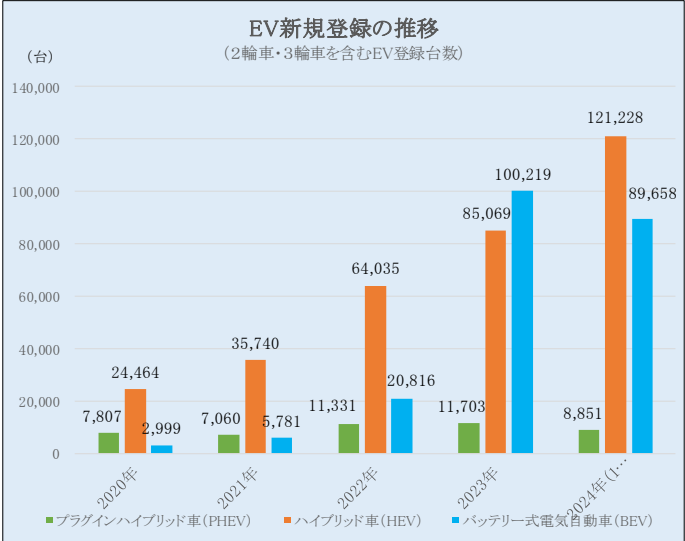
出所:タイ工業連盟(FTI)



出所:タイ運輸省陸上運送局のデータを作成



出所:タイ国トヨタ自動車のデータを作成



出所:タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局